■シリーズ■ 子校武道

授業の充実 に 向 ナ 13

剣道授業 0 実践報告と必修化 0 課題



栃木県小山市立乙女中学校 教諭

追田

通して学ばせたいことを明確にし、技能の向上だけでなく、武道に の育成へとつなげていくことが理想となってくる。 対する興味・関心を高め、生涯にわたって運動に親しむ資質・能力 すべての生徒が武道に触れることとなるからこそ、 武道の授業を

検討、指導法の工夫が求められてくることは明らかである。

中学校体育における武道必修化を受け、環境の整備や指導内容の

えてきたものを紹介する。 た現場の指導をもとに、その考え方や実践内容、 今回は、「武道」(剣道)の授業において、導入部分に焦点を当て 成果や課題から見

はじめに

これまでは男子は武道、女子は ダンスの授業を実施していた。 木県小山市立乙女中学校では、 必修となる。 成24年度から中学校では武道が しかし、 学習指導要領改訂に伴 学校に武道場、防具、 筆者が勤務する栃 平

る意欲を高めながら、 いて、 習の「武道」(剣道)の授業にお ことにした。 度からは、 生徒の実態を考慮し、平成20年 必修化に向けた授業を展開する 「ダンス」のどちらかを選択させ、 を対象として「武道」(剣道)か 上も目指した導入』に重点を置 た指導私案を紹介したい。 特に ″剣道の学習に対す 本稿では、男女共 年生から男女全員 技能の向

して何を学ばせたい まず、 指導者として剣道を通 のかを確認

①以前に比べて日常生活で行 理解させる)。 心や感謝の心、 いるといわれる事柄を経験 剣道具の扱い

②礼儀作法や相手を尊重する態 (礼やあいさつ、 の意義を理解し、 度を重んじることの理由やそ 謙虚な心な 実践させる

竹刀(カー

ボン竹刀)などの設

備や用具が整っていたことや、

③新学習指導要領にあるように 高め で剣道に対する興味 感や充実感を味わわせること や奥深さを実感させる(達成 くなかで、 うことを目指して活動してい 技ができるようにする」とい わ 「技ができる楽しさや喜びを味 る。 。 基本動作や基本となる 剣道のおもしろさ 関心を

しておきたい 現代の子どもたちに不足して その重要性を学ばせる(平常 伝統的な行動の仕方や考え方、 ひもを結ぶ動作などを行い、 れることの少なくなった正座 普段は触れる機会の少な 忍耐力など、 防具の

内容である。 次に、 を見つけ、 以上の4つが、 経験させる。 にする」なかで、 さや喜びを味 生徒から見た剣道につ (うち女子の わ

> これまでに体験したことがない 生徒が「楽しみ」と答える一方、道の授業に対して約6割以上の み」という回答を選んだことが 約4割の生徒は「まあまあ楽し 感じている生徒も多く、残りの 運動種目であり、 とばが多く書かれていた。 「痛そう」「厳しそう」というこ 由記述させたところ、「難しそう」 わかった。また、その理由を自 に実施したアンケ 不安や心配に では、

なかで、 痛そう」などの生徒たちが剣道 の技能や態度を身につけていくれていたが、授業を通して剣道 に対して抱いているマイ 重くて暑そう」「裸足で動く 痛そう」「防具を着けて動く するいろいろなイメージも書か 事前アンケー ジよりも、 「竹刀でたたかれるのが 「堂々として トには剣道に対 ナスイ ので ので 7



力し、仲間と協力することを 身につけることができるよう 「技を高め、 その解決に向け努 勝敗を 自分の課題 得意技を 競う楽し

筆者の考える

他に、 動部に所属。また、中学校入学の合計35名。そのうち29名は運 中学校でも剣道部に入部)。 の合計3名 ある生徒は男子1名、 前までに剣道を経験したことが 道選択者は男子18名、 した女子生徒が6名である。 いて、その実態や事前アンケー の結果から考えてみたい。剣 授業を始めるにあたって全員 中学校から剣道部に入部 女子2名 女子 17名 1 名 は その

125

<写真提供=埼玉県さいたま市立大谷中学校>

音がかっこいい」「竹刀でたたく力が身につきそう」「竹刀で打つかっこいい」「一瞬の勝負で集中 が楽しそう」などのプラスイ

者側で工夫していくことが必要学習を進めていけるように指導メージが大きくなり、積極的に であると感じた。

か 5 「竹刀の握り(手の内の、(瞬間的な「手首の っ、導入の部分で打突のこらに、男女共習である

を払拭 に配慮し、 とで、 練習になったときに、 り)」) を求めて指導していくこや「竹刀の握り(手の内のしぼ 側が不快感を抱かずにすむよう てくるのではない 実際にお互いを打ち込む して 剣道に対する嫌悪感 いけば意欲も向上し かと考えた 打たれた

理想の

動きに近づけて

いくため

たり、

まで生徒同士で評価させ全体指導では見えなかった

|本指導では見えなかった部分||小集団に分けることにより、

導入段階の授業内容 ~4時間目)

をする。 みた実践内容の紹介とその説明 目まで)に焦点を当て、 た授業計画を表1に示す。 本稿では、 1時間目 イメージをつかもう』時間目の目標は『剣道 単元の導入 『剣道に触 (4時間 今回試 とし

授業計画(中学校1年時)

礼法

素振り(三挙動・正面・跳躍)

胴打ち (左右胴)

抜き技

払い技

簡易試合

自由練習

自由練習

オリエンテーション

足さばき

小手打ち

引き技

切り返し

切り返し

打ち方・受け方

グループ練習

用具の扱い方や安全について

打ち方のポイント (竹刀打ち)

返し技

グループ内での個人リーグ戦

グループ内自由練習

グループ内自由練習

小手面打ち

審判法

打ち込み

打ち込み

大切にして、安全に練習をしよう。 面打ち 打ち落とし技 ※防具の着脱テスト ねらい2 (7~12) 身につけた基本動作と対人的技 能を生かして、個人練習やグルー プ練習、試合を楽しもう。 グループ対抗試合① ※切り返し・打ち込みテスト グループ対抗試合② 学習のまとめ 2

打突部位の確認

竹刀打ち

基本動作を身につけ、礼儀作法を

ねらい1 (2~6)

足さばき

防具の着脱(片付け)

ここで、 実際の授業で使用し

学習活動

グループ編成

中段の構え

たれ、

時

2

3

5

6

9

10

1 1

1 2

① 説明・実践の説明・実践のい、学習の ③グループ分け らい、学習のきまり頃の歴史や学習計画 学習のきまりの説明 礼儀作法や所作 (5名×7 画 学習

返し

 \mathcal{O} るこ

た。 活動を取り入れていくようにし ような利点から、 たりという活動ができる。 に協力して試行錯誤を繰り返し グループでの この

る ④打つことの楽しさを味わわ

徒もそれぞれにおおまかなイメさせる(初めて剣道に触れる生 み稽古や試合をする様子を見学用の姿を披露し、実際に打ち込 用の姿を披露し、剣道部員が道着 ジをつかむ)。 道着、 袴、 防具着

また、

手・胴を打つ ⑤全員が竹刀を握 Ŋ 面 • 小

(「竹刀は右手が上竹刀の持ち方の) その際の指導内容は、 4上、左手が下ののみに限定した あえて

②防具の着脱、 仕方やその必要性の説明 竹刀の しくみや名称、 片付け方の指導 点検の

たらか

お互を持つ

と教える程度)。

O

竹

刀を打ち合わ

せ ま

剣道部[

員に元立ちをさせること

般の

生徒には打ち込んだ

がる

ではなく、剣道部員の7名

各グル Ō

プに分かれたの

で、

正し

い着装を身につ

けるには

時の

感触や音などを楽しむこと

に集中させた。 2時間目

とにした。 時間が ③グループ内でペアを組んでの 垂れ・小手のみで進めていくこるまでは、面を着用せずに胴・ 竹刀打ち(打たせる側が竹刀を 横にして自分の頭の高さで持ち、 できたので、 かかることが事前に予想 単元の導入が終わ

目標は『月長」となってくるので、2となってくるので、2

いて、2時間目のいで、2時間目の

を知り、

正し

い使い

方を覚えよ

打つ側がそれを目指して打ち込

む

とし

伝える」という追加課題も与え自分のことばで表現して相手に のほうを持つ」「物打ち(竹刀のと同様に「右手が上、左手が下 た。 手に打たれたときの感触などを 2つを意識させた。さらに、「相 先にある打突部位) 注意点としては、 で打つ」の 前時の最後

には 「気持ちい する すういい」などの感想を持つい、「楽しい」―まぇ 受け 分が打つ側の Oとき 65

> 能向 ともに、学習に対する意欲を高 つ 「正しい竹刀の握り方、 めさせた。 てくる」とい 打ち方を学んで 聞かれた。この経験をし 「手がしび 上 受ける側ともに変化が出 の必要性を理解させると れる」などの声が多く うことを伝え、 といくことで、握り方、振り方 た後に、 方、 技

向かい合って構えたり、書や資料などで確認し、 ④構えと足さばきの確認(資料1) お互いの動きを評価し合い、 きの練習を行ったりするなど、 ループごとに改善を図らせた。 正しい構え、 足さばきを教科 足さば ペアで グ

3時間目

①足さばきの練習 を覚え、 よう』という目標にした。 前時の復習として、 3時間目は 竹刀操作の感覚を高め 『3種類の素振り ペア

右に動いたな てお互い なぎ、 んでお互い 動いたら、相手は左へ。リをする(リードするほうが互いが対応するように足さ、教師の笛の合図に合わせお互いのへその前で手をつ を組

ほぐしの運動を取り入れた練習。お互いの間隔をなるべく変えなお互いの間隔をなるべく変えなードするほうが前に動いたら、 ② 正 し い お 互 い (資料3) 2) と「正面打ちのポイン うに指導・助言を加えた。 に対応した足さばきができるよ 間合いでも最初と同じように構 少しずつ間合いを遠くしていき、 えの姿勢を崩さず、素早く相手 反復して練習をしていく中で、 に手が触れ合わなくなる の間隔をなるべく変えな 「竹刀の握り方」(資料 の説明・実践 いうように、に動いたら、 (す)体

③三挙動の素振り ◇ステップ

がら右足をすり足で前に出す ろに下がり**構え**に戻る。 付ける→(3)左足・ (2)振り下ろしながら左足を引き 構え→1)竹刀を振り 右足の順に後 かぶりな

慣れてきたところで、 次の ス

場で竹刀を振り ◇ステップ2 を振りかぶる→(2振り)(元足は動かさずにその

月刊「武道」 2009. 5

2009. 5 月刊「武道」

126

127

表 2 授業の展開例(4時間目)

\wedge	3 T₽	/т	ΤĦ		
$\langle \ \rangle$	誣	111111	场	田田	

	◇評価場面						
具体目標	学習活動	指導上の留意点	資料·準備				
	(始業前) ランニング・体操・補強運動 を行う。	○始業に間に合うよう、協力しながら大きな声で迅速に行動するよう助言する。					
礼法を理解 し、正しく行う ことができる。 足さばきのポイントを意識し ながら体を動か すことができる。	体ほぐしとしてのすり足で の対応運動を行う。	 ○正しい座り方、座礼ができているかを確認する。 ○健康の自己管理や自他の安全に留意した活動が常時できるよう促す。 ○すばやく正確に対応できるよう注意・助言をしながら巡視する。 ・左右の足の位置を確認させる・上体があまり動かないように意識させる 					
しっかりと竹 刀の点検を行う ことができる。 既習の内容を 思い出しながら、 大きな声で、正し く素振りを行う ことができる。	し、各自点検を行う。 4. 準備が整ったら、全員で	○自分の技能向上のために打たせてくれる相手に感謝し、思いやりの心を表すためにも、しっかりと点検するよう伝える。○号令者に合わせて大きな声を出し、正しい姿勢でまっすぐ竹刀を操作できるよう指示する。	竹刀				
迅速かつ正確に防具を着けることができる。 既習の内容を思い出し、積極的に正面打ちのはに正取り組むことができる。		○正しい着装ができているかを確認する。また、誤った着装は事故につながることも付け加え、以後着装が乱れた場合は正座して整えるよう指示する。 ◇前時までに学習したことを生かし、どのような打ち方がよいのかを思い出しながら工夫することができる。 ○多くの友達に自分の打ちを受けてもらい、その時の感覚を覚えておいてもらう。また、打った本人も感触を覚えておくよう指示する。	防具一式				

を担した。 本は、イがちすしルと のもをと打出を一こ。 本し、イがちすしルと がちすしルと 一をの打習こ がもな打が がれたが がちずらが がりがちが がりがちが がりがちが がりがちが がりがちが がりがちが がりがもががもががもががもががもがががりがもがががもががもがががががががががが	 7. 本時の目標を確認する。 ボール打ちを経験し、 *冴え″のある打突を 8. ポイントを理解し、グループごとにボール打ちを行う。 ・膝をついた状態(個人)・中段に構えた状態(ペア)で相手に打ち返せるように◎手本となる生徒の動きを見て、ポイントを再確認する。 9. ペアを組んでの竹刀打ちで、お互いの打突の冴えを評価しあう。 	 ○正しい竹刀の握り方と正面打ちの図を掲示し、理想の動きをイメージさせる。 ○膝をついた状態では、バスケットボールのドリブルをイメージさせ、どのようなタイミングでどのように竹刀を操作すべきかを問いかけながら巡視する。 ○目標として「力」ではなく「冴え」ということばを使った意図に気づかせたい。 ○上手にできている友達の動きをしっかりと観察し、まねをしてみるよう助言する。 ◇ボール打ちの経験を生かし、手首の力をきかせた打ち方を対人練習でも実践することができる。 ○授業のはじめの打ちとの変化を感じられるか、また、変化があるとすればどのような感触だったのかを打って側・受ける側の両方で意見交換をし、さらに"冴え"のある打ちを目指し 	正しい「竹刀 の握り」「正面 打ちを示し た図 バレーボール
本時の学習を 振りの、学習カードに記録がに自入する とばができる。 礼、正しく ことができる。 にとができる。	10. 整列し各自で片付けを行う。11. 本時のまとめを行う。12. 整列、座礼、解散	て活動させる。 ○防具や竹刀に対する感謝の気持ちと、次に使う人への思いやりの気持ちを込めて、きちんと整理させる。 ○片付けが終わった生徒から、学習カードに記入を始める。 ○練習相手や防具・竹刀など、さまざまなものに対する感謝の気持ちを込めて座礼を行わせる。	学習カード

②三挙動、正面、 合っての足さばき(手をつ①竹刀を持たずにペアで向か 授業を行った (表2)。 打突を目指そう』を題目として ぐ・間合いをとる) 4時間目 時間目は 『″冴え″のある 跳躍素振り ない

小手を着け

た後、

が合わずに難しかった」「たくさん振っているうちに竹刀の握り方が変わってしまうことに気り方が変わってしまうことに気で素振りができた」「先生や剣道で素振りができた」「先生や剣道の友達にほめられたのがうれしかった」「早く相手を打ってみたい」などの感想が書かれており、意欲が高まってきている生徒や自分の動きの問題点を具体的に反省できる生徒も出てきた。 習 力 「跳躍素振りは手と足のタイミン 「カードからは、「腕が疲れた」 授業の振り返りに活用する学

りを練習。⑥グループごとに3種類の素振として反復練習を行った。

を操作することを重要ポイント声、大きな動きでまっすぐ竹刀りを全体指導で確認し、大きな ていく これら3~ ⑤の3種類の素振

して前に進みながら正面の高さげる→(2)右足・左足の順に跳躍らに下がりながら竹刀を振り上の確認 き、2拍子から1拍子に近づけ少しずつスピードを上げてい まで竹刀を振り下ろす。

きく足をさばくことの3点を意高さにくること、すり足で前後に大まっすぐ大き ⑤跳躍素振り 識するよう指導した。 最初は2拍子に分解し、 動き

で打つ) 前後に足をさばきながら一挙動④正面素振り(号令に合わせて

2009. 5 月刊「武道」 129 月刊「武道」 2009. 5 128 どを通して、

たよ

中学校武道 授業の充実に向けて13

3 度を養い、 うことで、 分たちの

「お互い の動きを自

生かし、素振りや竹刀打ちな る工夫・改善を行わせること 言葉で評価やアドバイスし合 「前時までに学習したことを 安全性などに対す 相手を尊重する態

とで、 ⑥竹刀打ちを評価する 評価し合えるようになってくる。 動きを全体で共通理解するこ ま た、 同じ基準で相互の動きを 途中で手本となる生徒

ちの前と後での感覚(感触)の内で竹刀打ちを行い、ボール打 変化を自己評価 まとめとして、 :相互 再度グルー 三評価さ せ 打 プ

■本時 (4 本時は、 ·時間目) 次の3つを目標とし の目標

① 「ボ 練習でも実践できること で、 を理解し、その打ち方を対人 手首 ル の力をきかせる打ち 打ちを経験すること (技

どのような打ち せるとい には指導者側が意図していて不安はあったが、生 どれほどの成果があるの

O

るようにはなったけど、

考 て活動すること プで考え、 ' 判断) がよい

ないようにした。 の答えとなるような言葉は出さ えて指導者側から打突の〝冴え〟 らの言葉で表現させるため、特に、②については、生徒

分たちのことばで感覚を伝えさ 変わっていくのが楽しか などの感想が書かれていた。 え』があるように感じられた」 た」「跳ね返るように打つと〝冴 それが、冴え、なのかなと思っ て、打つ瞬間に強さがあった。 のBさんの竹刀打ちを受けてみ あまり痛くなかった」「剣道部員 ル打ちをした後の竹刀打ちでは けたときは痛かったけど、 「はじめにAさんの竹刀打ちを受 ち方によってボールの弾み方が かし、 う方法をとったので、 学習カー 生徒の中 には かにつ った」 ボー 自

のかを個人やグル その動きを目指 (知識、

思 l

な部分への気づきもあった。

生徒自 あ ル打ちは」有効だったとい向上につなげるためには 向上につなげるためには「ボーえずに楽しみながら剣道の技能 能であるが、

小手・ まで着 単元のまとめとした。 その後、生徒の到達レベルに合つけるための活動が主となる。 に体当たりや左右面の指導も含 わせて簡易ルールの試合を行い できる程度までの技能」を身に めた切り返しや打ち込み稽古が さらに引き面・ 単元の最後の感想には、「礼儀 これまでの4 5時間目 胴から二段技の して 「基本となる面・ 引き胴、 からは実際に面 時間分を導入と 小手面、 これら

めての剣道で不安があったけど なかったのでくやしかった」「初 で防具を早く着けることができ 大切さを学んだ」「一人ででき 最後ま

立て膝での竹刀によるボール打ち

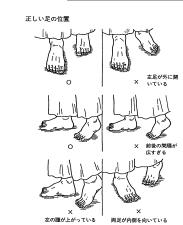
る打ちを目指していくことは可う中でももちろん 〝冴え〞 のあ う中でももちろん 〝冴え〟 のあお互いに防具を着けて打ち合 打ちは」有効だったといえる。 相手に不快感を与 や足が痛 言われたのがうれしかった」 かったけど、

いた。剣道に対する興味や関心を選択したい」などが書かれてたかった」「2年生でもまた剣道 った」「友達からよくなったねといろとできるようになってよか楽しかった」「新しいことがいろ を深めて意欲的に取り 積極的に 組 み、 手 向さ

らに自分なりに態度や技能 上を実感できたようであ

 \mathcal{O}

『構え』のときの足の位置(資料1)



うにさせる。 状態をしっかりと覚えておくよ 状態をしっかりと覚えておくよ

人。 レ

ボ

ルの連続打ちを行う(個

打ち」で、

元で押さえつけるように打

って

をイメージさせると、

竹刀の根

⑤ペアを組み、相手が頭の高さ

首の使い方を感覚的につかめる。に、と助言すると、理想的な手相手の近くまで打ち返せるよう

前でバウンドさせるのではなく、

打ち返したボールを自分の

首の返しを意識してボールを打

を狙って下から投げてきたボ

バスケッ

トボールの

・リブル

つようになる。

グループ内で竹刀打ち

④立て膝の状態のまま竹刀でバ

①右足のかかとと左足のつま 先が一直線上に位置するよう 心がける。

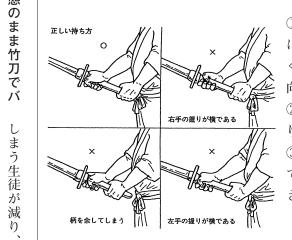
②左右の間隔は自分の足幅-つ分程度。

③両足のつま先を正面に向け る。

④左足のかかとを少し浮かせ る。

⑤重心は両足間の中心に置く。

竹刀の握り方(資料2)

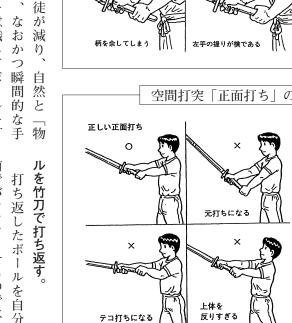


①両手の親指と人さし指の間 できるV字が弦の延長線に るようにする(V字が下を 向くように上から握る)。

②左手は柄頭を、右手は鍔よ りも少し下の部分を握る

③両手とも小指・薬指・中指 でしっかりと握り、親指と人 さし指は軽く添えて握る。

空間打突「正面打ち」のポイント(資料3)



テコ打ちになる

①振りかぶり・振り下ろしは まっすぐ。

②打突時の右手は肩の高さ、 左拳は胸の高さで止める。

③手だけで振るのではなく、 足さばきなどの下半身の動き を使って打つ。

130

体育分野の

の確保が必要とな

と「H体育理論」

表現もされ

れて

前述した

考慮して配当すること」とい の習熟を図ることができるよう 授業時数については「その内容

う

の2領域で年間

10

単位時間

程度

26

時間と

45

Ó

こととなり、

均すると、年間

間で48単位時間程度を配当する そのうち保健分野の学習を3年

たり 26 (

13時間程度)となる。また、 27単位時間程度(1年間あ

中で「武道」」 今回は現行の 時数が105単位時間に改訂された。 習指導要領では、 展開していくことになる。 学習指導要領に対応した授業を

年間標準授業

なる。それを均等に配当したと

か

すると、

2年間で1領域当たり

新学

の 6

領域を学習していくことと

して学習させたが、

械運動」から「Gダンス」まで残りの158単位時間程度で「B器のうち、前記の条件を満たした

び第2学年の

Ò 時

时数(20単位時間) まり、第1学年及

É,

を確

いる。つまり、第1学年及保するということも明記さ

得られた成果剣道の学習を通し て

の重要性を理解し、 伝統的な行動の仕方や考え方 平常心や

業がスター になり、 きるようになった。 刀の点検や防 ためか、落ち着 防具を着け 立礼や座礼に始まり、 感謝の気持ちを表現で できた。 具の扱い方も丁 刀の いた雰囲気で授 点検を行う また、 正座で 竹 寧

践できるようになった。 度を重んじることを理解し、実 ②礼儀作法や相手を尊重する態

体育 生徒が増えた。全体的にそのよ 道場の出入りの際にも「失礼し とあいさつや礼 な雰囲気ができてきたことで、 相手や先生への礼だけでなく、 の授業以外の場でもしっか 失礼しました」と言える (会釈) が で

おもしろさや奥深さを

心が高まっ 剣道に対する 興味 関

成感や充実感を味わうことがで選んだ。授業を通して剣道の達道を選択したい」という回答を ち 31 名 が きた結果ではな の学習終了 かと思う。 った」 35 --「また剣 ア ケ

④仲間と協力し、課題を解決す る能力が高まった

感謝の心が育ってきた。

力して理想の動きに近づけてい向けて努力をしたり、仲間と協 てきた結果、 育」を常に意識して授業を進め 互評価を多く活用し、 グループ活動や個人評価、 課題を見つけてその解決に 自分の動きを理解 できるよう 「考える体

今後 の課

度以降の学習に組み入れていく運動に対する知識として、来年指導することができなかった。 た試合にあまり時間を使えず、に、単元の最後に位置づけてい間と多めの時間を費やしたため見られた。しかし、導入に4時 定の また、 高め か しさや喜びを感じたり、自分な勝敗を競い合うなかで剣道の楽 指導 必要がある。 という段階までは至らなかった。 6 1 りの得意技を見つけ出したりと 兄られた。しかし、導入に4時す〟という点については効果が局めながら、技能の向上も目指に、剣道の学習に対する意欲を 15 う体験から意欲を高めていく ル みに重点を置いたため、細、審判では、有効打突の判 ルや審判の作法までは 授業におい 男女共習 て、の

た。 今回 0) よう

ために、一般の女子も積極的にの比率もほぼ同じ、さらに剣道の比率もほぼ同じ、さらに剣道の比率を実施したのは1年生で、男女を実施したのは1年生で、男女

ような技能のは 場女間や同性で がに、活動グロ がに、活動グロ てくるであろうと感じた。 ても安全に学習 とができた。 も大きな差が出てくるたや同性でも個人の体力や ることができ、 し ル 練習も必要にな [を進めて 年生になると、 プを考慮す 体当た 成長過程 能に関

つる

て日本剣道形や、剣道基本技稽っても、木刀や竹刀などを用いれることになったいま、設備やれることになったいま、設備やれることになったいま、設備やれることになったいま、設備やれることになったいところであり組みができた。し に学んできた教師がいたことなが揃っていたこと、剣道を専門や防具・竹刀などの設備や用具 いくことが必要となってくる。わせて工夫し、剣道を学ばせて古法を実施するなど、実態に合 どから、これまでに説明してき や防具・竹刀などの設備や用また、本校の場合は、武道 対応できるような指導者 したがって、さまざまな状況に 武道場 σ 育成

本校では剣道の単元を12時 間

特別企画

●八極拳拳士が語る「八極拳国際培訓中心」レポート "八極拳の故郷" 孟村練拳記2009

武道・武術の秘伝に迫る!

4月14日発売

定価990円(税込)

■護身という原初コンセプト

■指一木で制す! "瞬間技法"のメカニズム

■八光流柔術の歴史と"奥山龍峰"の系譜

■経絡理論が織りなす奇跡の療術 "皇方指圧"

●新時代の"身体"と"心"を語る

対談 城間啓史郎 (琉煌會) ×北川貴英 (システマ)

●須田達史の体幹チューニングPart3 対談 須田達史×鈴木国博

本誌初登場! 二宮整体 「骨盤調整法」

淺山一傳流体術武徳会 一日講習体験

危機の乗り切る、

連載

133

武慧会 竹井正己「竹井式太極理論 最終回」/高岡英夫「究極の意識と究極の身体」/松原秀樹 "合理的な動き"を追究する「100%動ききる ための調整術」/飛龍会「胴体力」 メソッドで 養う「"軸感覚"養成短期集中講座」/松田隆智 「歩み続ける拳の道"拳法の極意を求めて"」 平上信行「秘伝居合術」/武術秘伝書夢世界 増田俊也「七帝柔道記」/黒田鉄山「直問直答 鉄山に訊け」/天野敏「組手、ときどき波」/日 野晃「武道者徒歩記」など、豪華連載!

(株)BAB ジャパン出版局 〒151-0073 東京都渋谷区笹塚1-30-11 中村ビル TEL03-3469-0135 FAX03-3469-0162 秘伝ホームページ http://www.bab.co.jp/hiden.

年におり扱い 他の 性か で、 修させること」となっているの年において、すべての生徒に履 りなに 各学年で段階的 が必要になってくると考える 接的に攻防するという運動の する運動種目であり、 して学習することも可能である。 する運動種目であり、相手と直「武道」は中学校で初めて経験 なっている。といよって弾力な日安であり、当 「ダンス」をそれぞれに選択 どちらかの学年で「武道」 領域や学校の実態に応じて ら考えると、 あり、 はい 第 1 る。さ 第1学年及び第2学のに扱えるように、学校や生徒の実態 体幹チューニングとメンタル・タフネス ●骨盤機能に左右差あり!? な指導ができる 、継続的な学習という運動の特 ●大和ナデシコの古流柔術初体験 ●沖縄小林流空手道研心会館 横山和正

究極のポジショニングとは? 栃木県版』

学校体育の授業 $\frac{2}{2}$ (1) 『新学習 大修館書店 有田祐二著、 0 8 (下巻)』 導要領による 中学体育 学習 実

【参考文献】

てくるであろう。

夫していくことが重要にな

ていくことが重要になっ充実した授業になるよう

村山勤

月刊「武道」 2009. 5

「武道」を選択したいよ第3学年になったと触れ、生徒が興味・関

たときにま

た

と思えるよ

関心を高め、

第 組れ、

と、「武道」の楽しさや奥深さにて、技能の向上はもちろんのこように見通しを持って計画を立

2009. 5 月刊「武道」

132

し